

保護者の皆様

枚方市立西長尾小学校
校長 武田 正道

令和6年度「学校教育自己診断アンケート」の結果について

向春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、12月に実施いたしました学校教育自己診断アンケート結果について、下記のとおりお知らせいたします。この結果をもとにこれからの学校運営をより良いものにしてまいりますのでよろしくお願いいたします(全体のアンケート集計結果はグラフにして裏面に掲載していますのでご参照ください)。ご協力いただきましてありがとうございました。

記

1. 調査回答率

児童 94.4%(319名/338名) 保護者 34.3%(116名/338名)

2. 結果の概要と分析

※ アンケートは「そう思う」を1とし、「そう思わない」を4とする4段階評価の選択としています。結果の特徴をとらえやすくするため1及び2を肯定的評価、3及び4を否定的評価として表現しています。前年度比較で上回ったところは+、下回ったところは▲で表しています。

【主な共通項目について】

<表1>

	対象	設問	肯定的(前年度比較)
1	児童	学校に行くのが楽しい	93.4(▲1.7)
	保護者	子どもは学校に行くのを楽しみにしている	96.6(+6.5)
2	児童	先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる	98.7(+0.7)
	保護者	先生は子どもの意見や考えを大切にしている	98.3(+4.0)
3	児童	落ち着いた雰囲気の中で授業をうけることができる	90.0(▲1.3)
	保護者	学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている	95.7(+3.7)
4	児童	授業はわかりやすい	95.3(▲2.2)
	保護者	先生はわかりやすい授業づくりに努力している	98.3(+0.6)

本年度は、特に、生きていくための力である「非認知能力」(西長尾小学校で育てたい7つの力=①自制心、②忍耐力、③向上心、④自尊心、⑤協調力、⑥受容・共感力、⑦相互理解力)を育むことを全教職員が意識した指導に力を入れてまいりました。また、これまでの効果的な取組みを継続し、「すべての児童が、心を通わせる力を磨き、いきいきと学ぶことができる学校」をめざし、「一人一人の居場所のある学級」、「わかる、できる、と児童が感じる、魅力のある授業」、「温かみのある、落ち着いて学ぶことができる環境」を重点に取り組んでまいりました。

昨年比で整理すると、上記の項目1につきましては、昨年度に引き続き「学校に行くのが楽しい」という児童が90%を超えました。また、項目2につきましては、昨年引き続き良い結果となりました。とはいえ、一人ももれなく、「楽しい」といえる学校づくりに、今後も、取り組んでいきます。

特に、子どもも大人も、お互いの気持ちをしっかりと受けとめられるよう、他者意識に立つ力を磨くことを意識する機会を大切に、子どもたちを育てていきたいと思えます。

また、項目3・4のとおり、授業については肯定的回答が少し減っています。教職員一人ひとりがさらに研鑽に励み、子どもたちの実感として落ち着きのある、わかりやすい授業を、心してつくっていきます。

また、保護者の皆様と丁寧連携しながら、子どもたちが学校での学びを、より楽しみにできる環境をつくっていきます。

— 演劇的手法を生かした授業を取り入れた効果について —

昨年度に引き続き、子どもたちに、人と人が関わり合うことの良さや、協働して活動することで生み出されるものの価値の高さを感じさせることをねらいとして、全学年で、演劇的手法を生かした授業に取り組みました。

この取組は、子どもたちの他者理解力や自己肯定感を高め、「学びに向かう力、人間性等」といった、物事に前向きに取り組む姿勢を養う効果があると考えています。

また、この取組により、教職員が子どもたちの「生きる力（非認知能力）」を見立て、その行動の良さを価値づける視点を磨くこともめざしています。

表1のアンケート結果はわずかに減少していますが、高い位置を維持しているととらえています。下に示した児童の肯定的回答の状況には、演劇的手法を生かした授業の取組を継続していることも良い効果を支えるものの一つとなっていると分析しています。

【保護者用アンケートについて】

「先生はわかりやすい授業づくりに努力している」「先生は子どもの意見や考えを大切にしている」「学校は落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている」等、それぞれ昨年度より高い割合で肯定的回答をいただいています。特に「学校の先生は子どものことについて相談しやすい」が+8.7ポイントとなり、その信頼にさらに応えられるよう努力を重ねていきます。今後も心理的安全性のある教育環境を一人一人の教職員が成長していくことでつくりあげていくことができるように、一致団結して取り組んでいきます。

一方で「子どもは家で自分で計画を立てて学習している」が昨年度比+1.5ポイントと横ばい状態で、「子どもは家で、『学習』の時間を決めている」が+2.0ポイント、「子どもは家で、学校の授業の復習をしている」が+1.3ポイントと、肯定的な回答が昨年度よりわずかに上がっているものの、まだまだ低い割合といえます。今後も、主体的に家庭学習に取り組めるような指導の工夫が必要であると考えています。

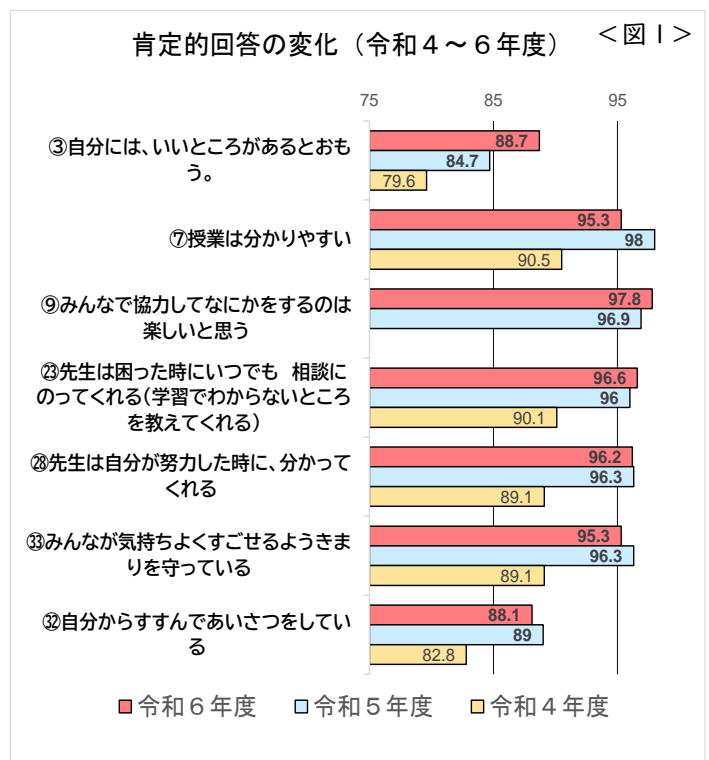
また、「子どもは家で、本を読んでいる」は、昨年度比-10.8ポイントとなっており、大きく減少しています。児童の回答の中の「学校の図書室で本を借りて読んでいる」が昨年比-11.1ポイントであることに比例していると考えられます。ご家庭でも本に親しむことができるような、学校での読書の動機づけの機会を増やしていく必要があると考えます。

【児童用アンケートについて】

昨年度は、継続した質問項目すべてにおいて、肯定的回答のポイントが上昇していましたが、今年度は昨年度に比べわずかに減少しているものの、読書に関する項目以外は、おおむね高い肯定的回答が得られたと分析しています。

上昇の見られた項目は、「先生は困った時にいつでも相談にのってくれる」「先生は、わたしたちに分かるように褒めたり叱ったりしてくれる」など、教職員との関係性のよさや「自分にはいいところがあると思う」といった自己肯定感に関する項目であることが特徴的です。

また、昨年度から新たな質問項目とした、「みんなで協力して、なにかをするのは楽しいと思う」が継続して高い肯定的回答であることも、全校で非認知能力の向上を意識して教育活動に取り組んだ効果であると考えています。

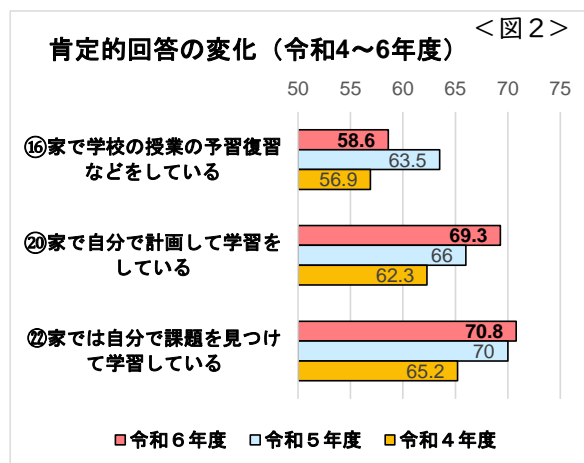


<裏へ続く>

その一方で、低い割合を示しているのが家庭学習と読書に関する項目です。

右のグラフのように、肯定的な回答ができなかった子どもたちが今年度も3割から4割程度います。昨年度から始めた自学自習ノートの取組により、自分で課題を見つけて学習する意識は少しずつ定着してきているようですが、子どもたちが、主体的に自身の課題に向き合い、自分で取り組みを決め、計画して努力を重ねる意識を育てていく必要があります。

より本質的な視点で、動機付けができるような指導をめざしていきます。



3. 学校教育をより良くするためのご意見欄にご記入いただいた事項について

建設的なご意見を多数お寄せいただきました。下記のとおり、おもなご意見への回答をお示します。大変にありがとうございます。それぞれの項目番号が質問です。

1) 切り替え時期もありますが、まなびばけっと、クラスルーム、書類とあり、結局どれを見ていいのかわからないことがあるので統一していただきたいです。

→ 今後は紙ベースで確認が必要な書類以外は、まなびポケットに統一していく予定になっています。クラスルームは次年度から使用しません。

2) 本の貸出数を増やしてほしいです。

→ 図書の貸し出しは中休みと昼休みにも行っています。基本的には毎日開館していますので、返却日までに読み終えた本は早く返却することができます。例えば月曜日に借りて同じ週の水曜日に返却、同時に新たな本を借りることもできます。

3) "全学年を通して、挨拶ができる子供がかなり少ないので、挨拶程度はできるように指導していただきたいです。朝の登校班の子供達は、喋ってはいけないルールからか、表情からしてかなり暗いです。喋ってはいけない=挨拶しない 6年間を通じて思った事です。"

→ 自分で身を守ることに、コミュニケーションを取り合うことについては、子どもたちが時と場合を把握したうえで自分で自信をもって判断できるように育てていかなければならないと考えます。ご家庭との連携も含めて取り組みを検討できればと考えています。

4) 取りこぼされている子をフォローする授業が放課後にあればと思いました。

→ 放課後は、先生方の教材研究や打ち合わせ、研修の時間のために確保しています。放課後には取り組めませんが、個別最適な学びの観点で、共通した宿題だけに特化するのではなく、個々人の状況に合わせた宿題の工夫にも取り組んでいきます。

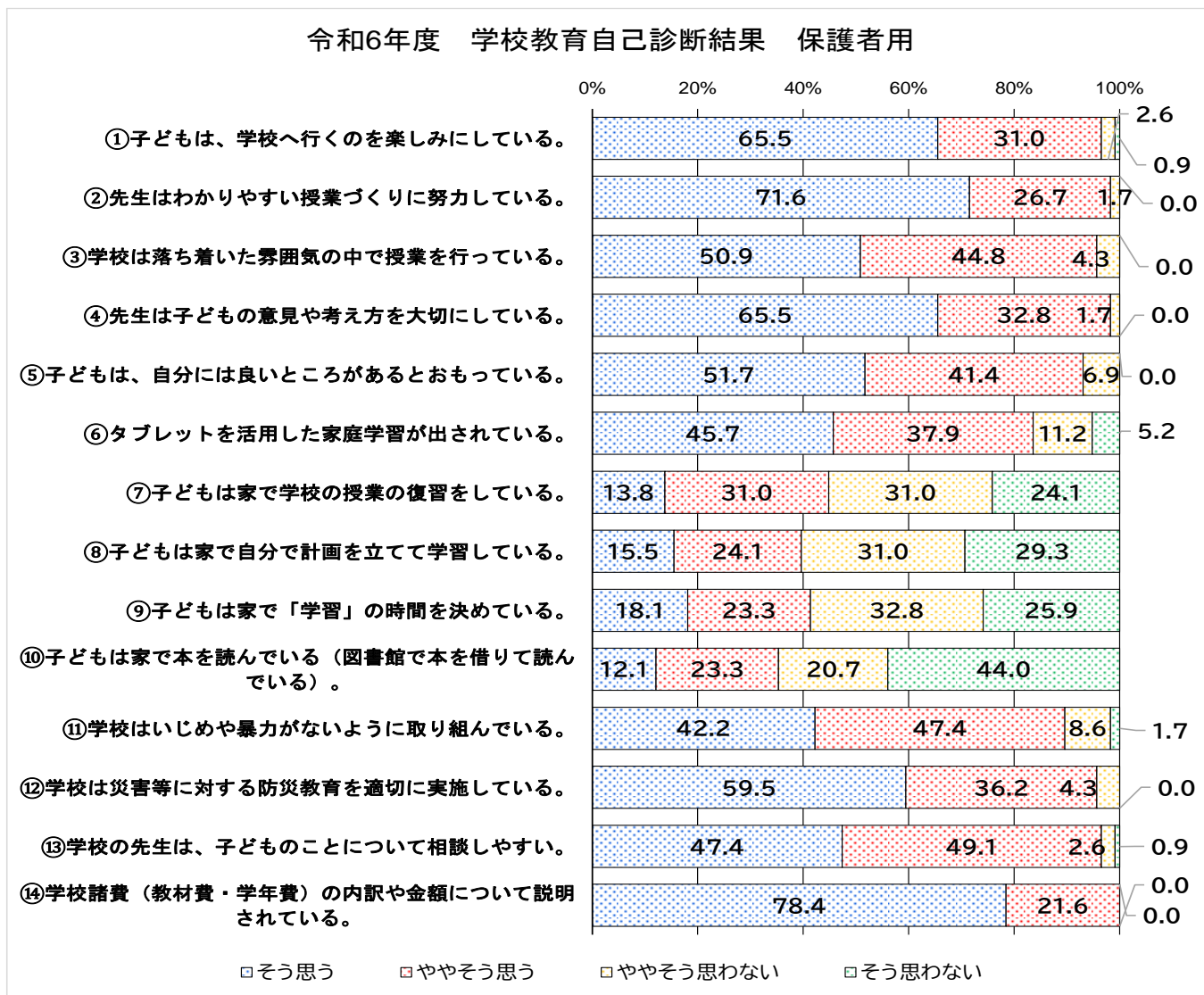
5) 参観に行くと毎回先生と言うのは本当にやることが多いんだなと感じます。授業に補助で入れる支援員の様な人がいれば少しは楽になるのではないかと思います。いつもありがとうございます。

→ 本校には、特別支援教育支援員が1名配置されています。このような配置はさらに拡充が求められています。現場からの声を教育委員会へ伝えます。

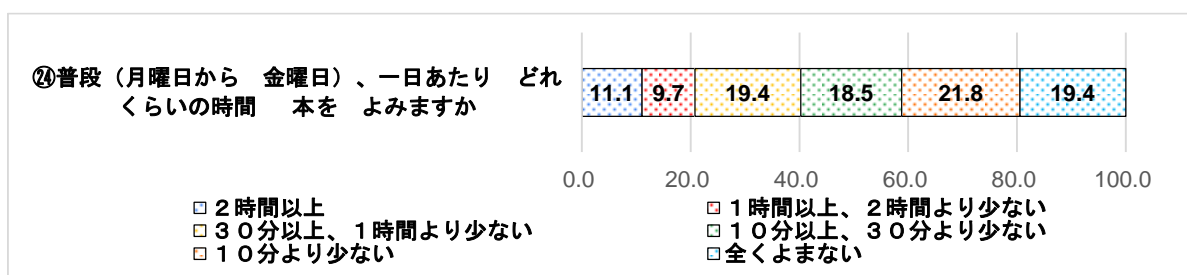
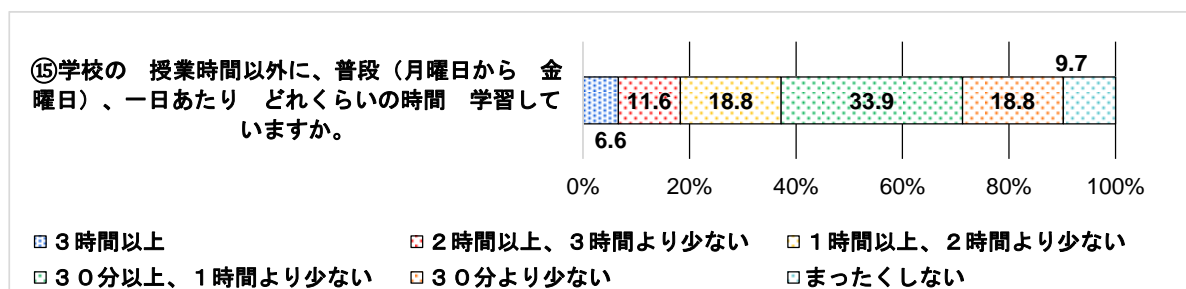
6) 何事においても是正ではなく予防に目を向けた取り組みをして欲しい

→ 子どもたちが生活上の課題に目を向け、その改善のために自ら工夫する意識を高めることが、よりよく育つことの価値を認識させることにつながります。このような「自分ごと」として考えさせていく指導に力を入れたいと考えています。

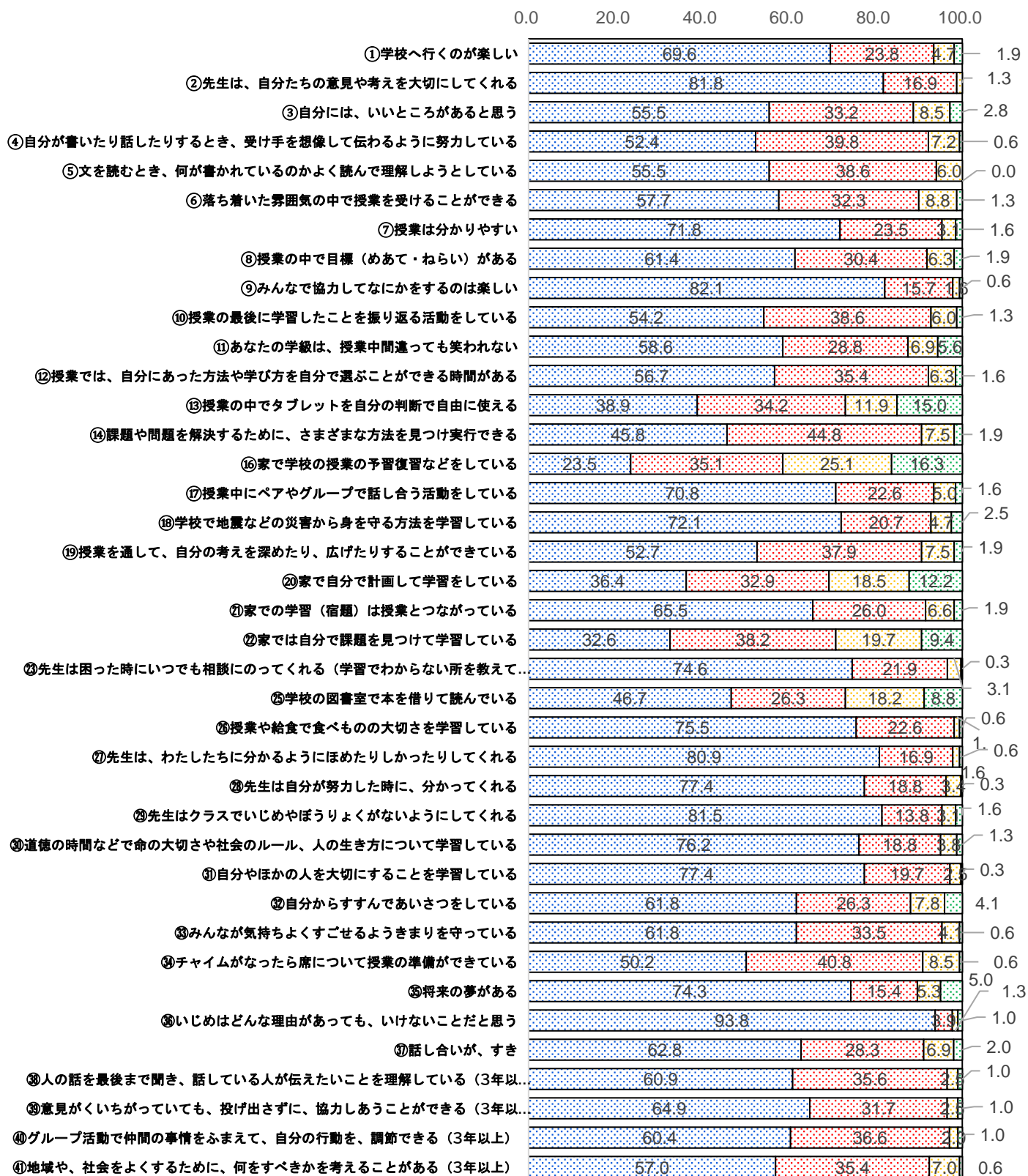
4. 自己診断結果グラフ



令和6年度 学校教育自己診断結果 児童用



令和6年度 学校教育自己診断結果 児童用



そうおもう
 すこしそうおもう
 あまりそうおもわない
 そうおもわない

5. 終わりに

アンケート結果は、全教職員で共有し、来年度に向け、より良い学校をつくるために活用いたします。今後とも、学校への変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。